

平成29年、みなさま様々な思いで新年を迎えられたことと思います。私もいろいろ今年目標を考えてみましたが誰しも共通した目標としてはまず「健康で過ごす」ということが上げられるのではないかと思います。…願っていたけましたでしょうか？

さて、ではその健康という言葉に定義があることをご存じですか？WHO(世界保健機構)が1948年に提唱した「健康の定義・前文」にはこのように示されています。

「健康とは身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であり、単に病気あるいは虚弱でないことではない。」とあります。

この文章は一見もつともと思いますが、よくよく読み直すと「完全に良好」という非常に難しい条件が求められていることに気がきます。

では、この3つの条件すべてを完全に良好とすることは難しいとするならば、勝手ながらこの3つの条件の中で皆さんはどれを選ばれるのでしょうか？中心はどれだと思われませんか？

実は私がこの定義を知っ

たのは19年程前、鍼灸専門学校に通っていた頃のことです。その後資格を取得し実際に治療院で働くようになり患者さんから最もよく聞いた言葉が「人間、健康が一番だねえ」という言葉でもあり、3つの中では「身体(からだ)が中心」と答える方が多いのではないかと想像します。

しかし、たとえばこの質問を政治家の方々にしたらどうでしょうか。本来、お国や社会の安定を担うべく命懸けで活動する方々ですので「社会の健康」と答える人も多いのではないのでしょうか。今年はアメリカの大統領にドナルド・トランプ氏が正式に任命されますが、大統領選挙の際アメリカ第一主義を強く訴え移民排除、核装備増強などで社会の安定を考えている方なのでアメリカ社会の安定はさておき世界全体の安定がどうなるかが世界的社会の健康が懸念されています。

さて、改めてこの定義の3つの条件「身体・精神・社会的」がすべて完全に良好という文にはどうしても違和感や矛盾を感じてしまいますが、浄土真宗のみ教えに基づき考えた場合には

この定義の別の側面が見えてきます。

まず、私たちは良い・悪いといった判断基準を中心に生活しているということです。当然「健康の定義」の高水準の健康条件を良しとして、人々がそれに向けて生活を送っていきます。しかしそこで重要な問題は、その条件から外れてゆく人々を不幸、場合によっては悪とみなす可能性もあることです。悪とみなされたものは差別され攻撃をうけることさえあります。

浄土真宗の阿弥陀仏という仏様には他に無碍光如来というなまえがあります。その意味は「障りなき仏様」という意味です。人間独特の善悪基準から生まれるあらゆる苦しみの真ただ中ですべての人々のお念仏となられ「きづけよ・あんしんしろ・必ず真実なる平等の世界につれてゆく」と喚んでくださっております。その仏様といっしょの人生ですから、そこには健康であろうがなかろうが一人一精一杯歩んで行ける人生があります。

本年も何卒よろしく願いいたします。

南無阿弥陀仏